

### ◎フランス、ブルカ禁止法を施行

【4月11日 AFP】欧州で国内のイスラム教徒人口が最も多いフランスで11日、イスラムの女性が顔をすべて覆うベールを禁止する法律が施行された。

欧州では同様の動きが広がっているが、実際に禁止法を施行したのはフランスが初めて。ベルギーでは同様の法律が議会を通過しているがまだ施行されていない。オランダでは極右組織などの指導者らがやはりブルカの禁止法を提案している。イタリアでは右派の北部同盟（Northern League）が今回のフランスの法律をモデルにロビー活動を行っている。

同法の施行によってフランスでは、社会的緊張が増すおそれがある。施行に先立ちパリ（Paris）では9日、ベールをかぶった女性19人を含む59人が、禁止されていた抗議行動を決行して逮捕された。またこの集会に参加しようと、英国とベルギーから入国しようとした2人が身柄を拘束された。

顔全体を覆うベールの着用は中東および南アジアでみられるイスラムの慣習だが、フランス当局は同国に居住するイスラム教徒400～600万人のうち、このベールを実際に着用している女性は2000人程度と推計している。

一方、国際テロ組織アルカイダ（Al-Qaeda）の指導者、ウサマ・ビンラディン（Osama bin Laden）容疑者などイスラム原理主義者たちはこの禁止法はフランスがイスラムに戦いを挑んでいるあらわれだとして、フランスへの攻撃を呼び掛けている。

<http://www.afpbb.com/article/life-culture/life/2795317/7062928>

【関連キーワード】政教分離、ヨーロッパにおけるムスリム、フランスのベール禁止法（2004年、正式名称：公立校のライシテに関する法律）

# イスラエルの歴史

## ユダヤ教の起源

## Overview

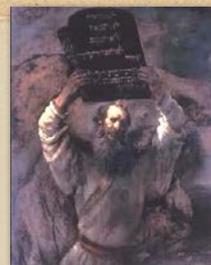
- ◆ アブラハム
- ◆ 出エジプト
- ◆ 士師の時代、イスラエル統一王国
- ◆ バビロン捕囚
- ◆ マカバイ戦争
- ◆ ユダヤ戦争

## アブラハム

- ◆ 三つの一神教にとっての信仰の父
- ◆ 神の言葉に従い、メソポタミア南部のウルから約束の地カナンへ移住
  - ◆ 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。」（創世記12:7）
  - ◆ 神との「契約」
- ◆ アブラハム、イサク、ヤコブ（→イスラエル）
  - ◆ その人は言った。「お前の名はもうヤコブではなく、これからはイスラエルと呼ばれる。お前は神と人と闘って勝ったからだ。」（創世記32:29）

## 出エジプト

- ◆ 前13世紀頃か？
- ◆ 十戒（出エジプト記20:1-17）
  - ◆ 「私は主、あなたの神、あなたをエジプトの国、奴隷の家から導き出した神である。」（十戒の冒頭）



## 十戒

- ◆ わたし（ヤハウェ）をおいてほかに神があってはならない。
- ◆ 像を造ってはならない（偶像崇拜の禁止）。
- ◆ 神の名をみだりに唱えてはならない
- ◆ 安息日を守らなくてはならない。
- ◆ 父と母を敬え。
- ◆ 殺してはならない。
- ◆ 姦淫してはならない。
- ◆ 盗んではならない。
- ◆ 偽証してはならない。
- ◆ 隣人の財産や妻を欲してはならない。

## 士師の時代、イスラエル統一王国

- ◆ 前12-10世紀、カナン定着後、カナン人、ペリシテ人たちとの戦闘
- ◆ 士師（軍事的・政治的指導者）を廃し、王を擁立する。
  - ◆ サウル、ダビデ、ソロモン
- ◆ イスラエル王国（北王国）とユダ王国（南王国）に分裂
  - ◆ イスラエル：前721年、アッシリアによって滅ぼされる。
  - ◆ ユダ：前597年、新バビロニア王国によって滅ぼされ、バビロニアへ強制移住。神殿（第一神殿）の崩壊。

## バビロン捕囚

- ◆ バビロンの流れのほとりに座り  
シオンを思って、わたしたちは泣いた。  
豎琴は、ほとりの柳の木々に掛けた。  
わたしたちを捕囚にした民が  
歌をうたえと言うから  
わたしたちを嘲る民が、楽しもうとして  
「歌って聞かせよ、シオンの歌を」と言うから。  
どうして歌うことができようか  
主のための歌を、異教の地で。 (詩編137:1-4)

## バビロン捕囚の影響

- ◆ 天地創造物語、洪水神話を受容
- ◆ 神殿の代わりとしての**シナゴーク**
- ◆ 前539年、ペルシア王クロスによる解放

## マカバイ戦争

- ◆ セレウコス朝シリアの支配下にあったユダヤ人の反乱。シリア王アンティオコス4世が前168年エルサレム神殿にゼウス像を建て、ユダヤ教の祭儀を厳禁した政策などに対し、ユダ・マカベアを指導者としてユダヤ人が蜂起。
- ◆ 「マカバイ記二」（旧約続編）によれば、豚肉を口にしよう強要されたマカバイの兄弟七人が、それを拒み殉教した。
  - ◆ 息を引き取る際に、彼は言った。「邪悪な者よ、あなたはこの世から我々の命を消し去ろうとしているが、世界の王は、律法のために死ぬ我々を、**永遠の新しい命**へとよみがえらせてくださるのだ。」(同7:9)
  - ◆ 復活思想の形成

## マカバイ戦争以降の主要集団

- ◆ ファリサイ派：復活を信じる。
- ◆ サドカイ派：霊・天使・復活を否定。
- ◆ 熱心党：ローマ帝国に対する武力闘争集団。政治的なメシアの到来を待望。
- ◆ エッセネ派：宗教的清さを強調し、隠遁的な集団を形成。クムラン教団（死海文書を作成）もこの一派か。



## ユダヤ戦争

- ◆ 第一次ユダヤ戦争（66-73）
- ◆ 第二次ユダヤ戦争（132-135）
  - ◆ バル・コクバの乱
  - ◆ 神殿（第二神殿）の崩壊。
- ◆ ハドリアヌス帝はユダヤ文化の根絶をはかる。エルサレムからユダヤ人を排除。紀元4世紀になってはじめてユダヤ人は、決められた日のみに神殿跡の礎石の前に立つことを許される（→**嘆きの壁**）。



## ユダヤ戦争後

- ◆ **ディアスポラ**（離散ユダヤ人）として生きる
- ◆ **ラビ・ユダヤ教**（現代のユダヤ教の起源）の形成
  - ◆ ファリサイ派が起源。神殿に依存しない。**トーラー**（律法、モーセ五書）と**タルムード**（口伝律法）を重んじる。